琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりの推進

琵琶湖森林づくり基本計画に基づき、「琵琶湖の恵みを活かし、皆で支え育む森林づくり」「やまの資源をフル活用した収益の最大化」を基本方針として、多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくりや、多様な主体との協働により進める森林・林業・農山村づくり、森林資源の循環利用による林業の成長産業化や人づくりに取り組み、琵琶湖と人々の暮らしを支える森林づくりを推進します。

森林づくり～多面的機能の持続的発揮に向けた森林づくり～

●適切なゾーニングに基づく森林づくりの推進

多面的機能を重視した森林づくり、主伐・再造林の促進等による持続可能な森林づくりや花粉発生源への対策、市町と連携した森林経営管理制度の推進を図ります。また計画的な除間伐等による森林吸収源対策の促進等、地球温暖化防止に貢献する森林づくりを推進します。

若く生育旺盛な森林（再造林後）

●災害に強い森林づくりの推進

山地災害の復旧や着実な治山施設の整備により災害の未然防止に努めるとともに、ライフライン沿いにおける危険木除去等の減災に資する森林整備等を推進します。また水源林の巡視や土地利用の監視などにより、その適切な管理を推進します。

風倒木等被害の対策（予防伐採）

●生物多様性の保全

生物多様性が保全され、多様な動植物が生息・生育する環境に配慮した豊かな森林づくりを推進します。

地域づくり～多様な主体との協働により進める森林・林業・農山村づくり～

●多様な主体による森林づくりの推進

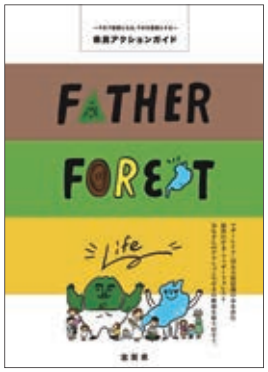
企業や地域、NPOなど多様な主体の参画による森林づくりへの取組を支援します。また、森林の多様な価値を発信し、森林・林業の情報を積極的に提供することにより、森林づくりへの県民の理解を深め、主体的な参画を促進します。

さらに、第72回全国植樹祭を契機とし、県民が一丸となって森林を「守る」「活かす」「支える」取組を進めます。

企業と協働による植樹活動の様子

●森林の整備、林業の振興と農山村の活性化の一体的な推進

森林の整備や木材生産を推進するとともに、地域資源を生かした仕事おこしや都市部との交流などに取り組むことによって、関係人口の創出や定住を促進するなど、農山村の活性化を推進します。



～やまで健康になる、やまを健康にする～
県民アクションガイド

産業づくり～森林資源の循環利用による林業の成長産業化～

●活力ある林業生産の推進

林地の集約化を推進するとともに、路網整備や機械化等による素材生産の効率化を図り、林業生産活動の活性化を促進します。

●県産材の加工・流通体制の整備

県産材の生産情報の管理等による安定供給体制の構築や、ニーズに対応した県産材製品の供給体制の整備を図ります。

●あらゆる用途への県産材の活用

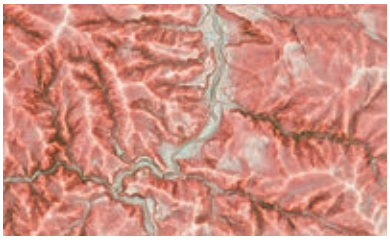
公共施設、住宅や民間施設などへの県産材の利用拡大を推進するとともに、木材の利用の意義等について県民の理解を醸成する木育を推進します。

●ICT等を活用した林業・木材産業の競争力強化

先進的な技術に基づく森林資源情報の把握や、原木流通情報のICT化等によるスマート林業の構築に努めます。

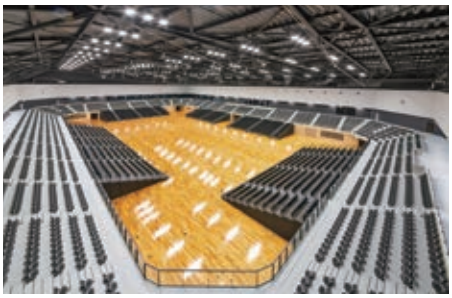
びわ湖材

産地証明された県産材
「びわ湖材」



森林微地形図

効率的な木材生産



びわ湖材を使用した公共施設
（滋賀ダイハツアリーナ）

びわ湖材製品の家具
（民間病院）

人づくり～豊かな森林を未来に引き継ぐ人づくり～

●林業の担い手の確保・育成

「滋賀もりづくりアカデミー」では、これから林業に就業を希望する人を対象に、安全かつ専門性の高い林業技術者の育成に取り組んでいます。（新規就業者コース）

また、既に森林で活躍する作業者や森林施業プランナー、林業行政を担う市町担当者を対象とした、知識や技術力向上のための総合的な人材育成を図るためのコースも設定しています。（既就業者コース、市町職員コース）

●次代の森林づくりを担う人々の理解の醸成

あらゆる世代への森林環境学習や木育を推進することにより、森林づくりへの理解を促進します。また森林整備の重要性などを普及啓発することにより、森林所有者への意欲の喚起に取り組みます。

「滋賀もりづくりアカデミー」
既就業者コースの様子

森林環境学習「やまのこ」事業

木育

◆「新しい林業」の構築に向けて取組を始めます◆

本県では、昭和40年代に積極的にスギ・ヒノキの植栽が進められましたが、今やそれらの人工林も60年近くになりました。ちょうど“伐り旬”を迎えたこれらの人工林に対して、県では有効活用を図るために「搬出間伐」という施策に重点的に取り組み、人工林を「伐って」、「出して」、それを「使う」…を目指して様々な施策を進めてきたところです。

搬出間伐の推進により県内の人工林では一定の間伐が進みましたが、これらの人工林では今後も高齢化が進んでいくため、これからは搬出間伐の次のステップとして世代交代を進めるべく「主伐・再造林」への取組に舵を切っていく必要があります。

しかし、昭和時代の拡大造林の手法をそのまま踏襲するのではなく、令和時代にふさわしい森林づくりとして、例えば、林業経営に適した区域とそうでない区域とのゾーニングや最新のICTを現場作業に取り入れる手法、さらには森林所有者に対する複数世代にまたがって安心して林業経営ができる仕組みづくりなど、「新しい林業」を構築するために、令和６年度から実証や検討、人材育成を進めていきます。

【「新しい林業」のモデル】

工程	主伐	再造林（地拵え・植栽）	保育（下刈）	保育（枝打ち）
作業イメージ	ICTハーベスタ	コンテナ苗と植穴機 ドローン運搬	ラジコン式草刈機	枝打ちロボット
新たな取組	ICTハーベスタの導入により、生産材積量を正確に把握するとともに、川下への供給情報の精度を向上させる。	機械化の難しい植栽は、規格化（コンテナ苗）と専用植穴機の導入により省力化を図る。 また苗木運搬は、ドローンの導入や、伐採に引き続いたフォワーダの活用により、省力化を図る。	成長の早い苗木を植栽し、下刈回数の減（３回程度）とラジコン式草刈機の導入により省力化を図る。	枝打ちロボットの導入により省力化を図る。
特　徴	• ICT化で生産量の確実な把握が可能 →出荷時期・量の精度が向上 →出荷先の信頼向上、取引増加	• 「伐造一貫作業」で機械の効率的な利用が可能 • 低密度植栽による省力化	• リモコン操縦により炎天下での作業負担が軽減 • 夏季作業を冬季に変更し作業条件改善	• 作業負担の軽減

従来、人の手に負うところが多かった林業の作業ですが、主伐（木を伐る）に加えて再造林（植える、育てる）の作業においても最新技術を導入することにより、作業員の負担を軽減したより効率的な林業を目指します。

◆「しが木育」の拠点施設を整備します◆

子どもから大人までを対象に、木材や木製品との触れ合いを通じて木の良さや利用の意義を学んでもらう『しが木育』に取り組んでいます。県立近江富士花緑公園内にある「森林のわくわく学習館」およびその周辺施設を木育拠点施設とするため、令和５年度に県内の木育関係者と先進事例の視察やワークショップを行いました。

令和６年度から「森林のわくわく学習館」の展示物の入れ替え等の改修工事を開始し、年度内のオープンに向け取り組んでいきます。

改修する森林のわくわく学習館